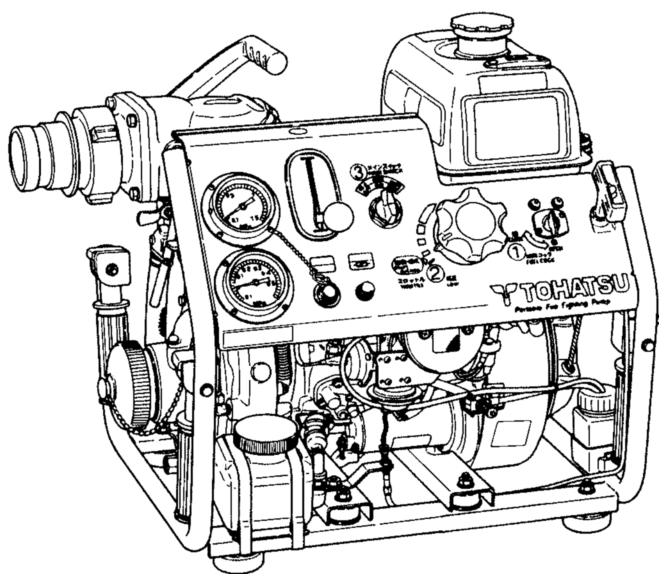
トーハツ消防ポンプ

取扱説明書

V25A(S)・V20E(S)



 トーハツ株式会社

は　じ　め　に

このたびはトーハツ消防ポンプをお買い上げ頂きまして、厚くお礼申し上げます。

本書は、トーハツ消防ポンプを正しくお取扱い頂き、その性能を充分に発揮し、有効かつ安全にご使用して頂くために編集したものです。

ご使用前に必ずお読み頂き、常に最良の状態でご活用されますよう、お願い申し上げます。

■　本ポンプは消防活動に使用することを目的としています。消防職員、消防団員、自主防災組織要員、自衛消防組織要員及び可搬消防ポンプ等整備資格者のうち安全使用法に関する教育訓練を受けた方々を取扱い対象者としています。

■　仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。あらかじめご了承下さい。

■　本書の内容についてのご照会は、トーハツポンプ販売店、又はトーハツ営業所にご連絡下さい。

■　点検整備については“可搬消防ポンプ等整備資格者免状”を有する整備者のいる販売店へ依頼して下さい。

お　ね　が　い

●本書を
　※良く読んで理解して下さい。
　※紛失、損傷の起きないような場所に保管下さい。
　※転売又は譲渡の場合は、本書を新しい所有者に渡して下さい。
●保証書を
　※良く読んで理解して下さい。
　※保管して下さい。
●トーハツ消防ポンプをいつでも正常にご使用できます様に
　※保守・点検と定期点検を行なって下さい。

●警告に関する表示について

操作者や他の人が死亡、重傷又は障害を負う危険性もしくは可能性、そして物的損害の発生が想定される事柄を、本機及び本書に以下に示す３種の重み付け表示を使って記載してあります。記載内容はその危険性や回避方法など安全を確保する上で重要であり遵守願います。



危　険　取扱いを誤った場合に死亡又は重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される場合。



警　告　取扱いを誤った場合に死亡又は重傷を負う危険性が想定される場合。



注　意　取扱いを誤った場合に軽傷又は物的損害の発生が想定される場合。

備考：警告ラベルの貼付位置については警告ラベル貼付位置の項を
　　　（P3）参照下さい。
●ラベルの表示が読みにくくなったり、ハガレそうになった場合は、すぐに貼り替えて下さい。

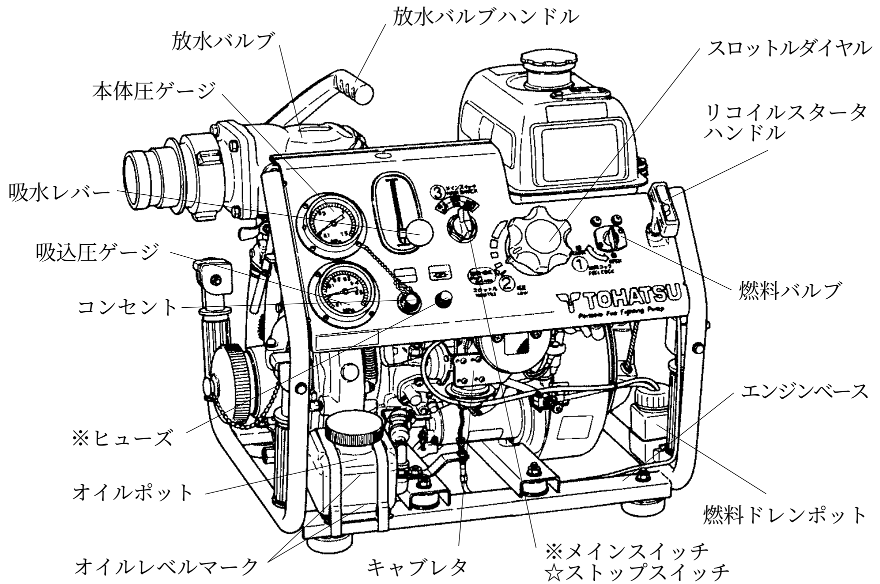
目　次

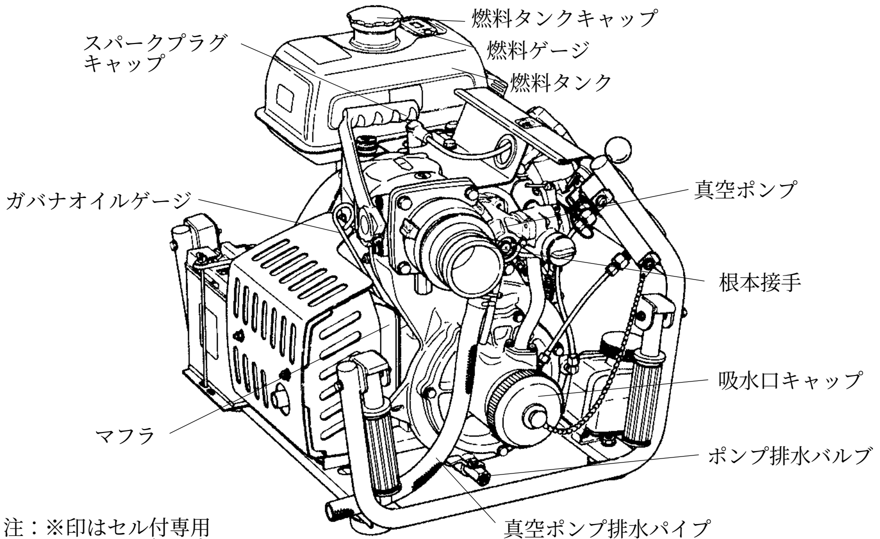
主　要　諸　元

区分	項目		V20E(S)	V25A(S)
総合呼称			V20E(S)	V25A(S)
ポンプ級別			C－１級	B－３級
届出番号			P 1063003	P 105D001
エンジン関係	型式		T66C型	T66C型
	形式		立形単気筒空冷２サイクル	立形単気筒空冷２サイクル
	内径×行程×気筒		66mm×58mm×１	66mm×58mm×１
	総排気量		198mℓ	198mℓ
	検定出力		8.6kW	8.6kW
	燃料タンク容量・消費量		約3.5ℓ・4.9ℓ/Hr〔規格放水時〕	約3.5ℓ・4.9ℓ/Hr〔規格放水時〕
	エンジンオイルタンク容量		約0.5ℓ	約0.5ℓ
	点火方式		C. D. イグニッション式	C. D. イグニッション式
	潤滑方式		分離給油式エンジン	分離給油式エンジン
	始動方式		リコイルスタータ（セルスタータ）	リコイルスタータ（セルスタータ）
	投光器（オプション）		12V35W	12V35W
	バッテリ・容量		（12V14Ah）	（12V14Ah）
ポンプ関係	形式		片吸込１段タービンポンプ	片吸込１段タービンポンプ
	口径	吸水側	消防用ネジ式結合金具 呼び65	消防用ネジ式結合金具 呼び65
		吐出側	消防用ネジ式結合金具 呼び65	消防用ネジ式結合金具 呼び65
	ノズル口径	定格	19.0mm	18.0mm
		高圧	13.0mm	12.0mm
	ポンプ回転速度	定格	5400r/min	5350r/min
		高圧	5650r/min	5800r/min
	水量／水圧	定格	0.53m^3/min/0.5MPa	0.5m^3/min/0.55MPa
		高圧	0.3m^3/min/0.7MPa	0.27m^3/min/0.8MPa
	真空性能		約9m	約9m
総合	全長×全幅×全高		約560×475×530mm	約560×475×530mm
	質量		約37kg（約43kg）	約37kg（約43kg）

注：（　）内はセルスタータ仕様を示します。

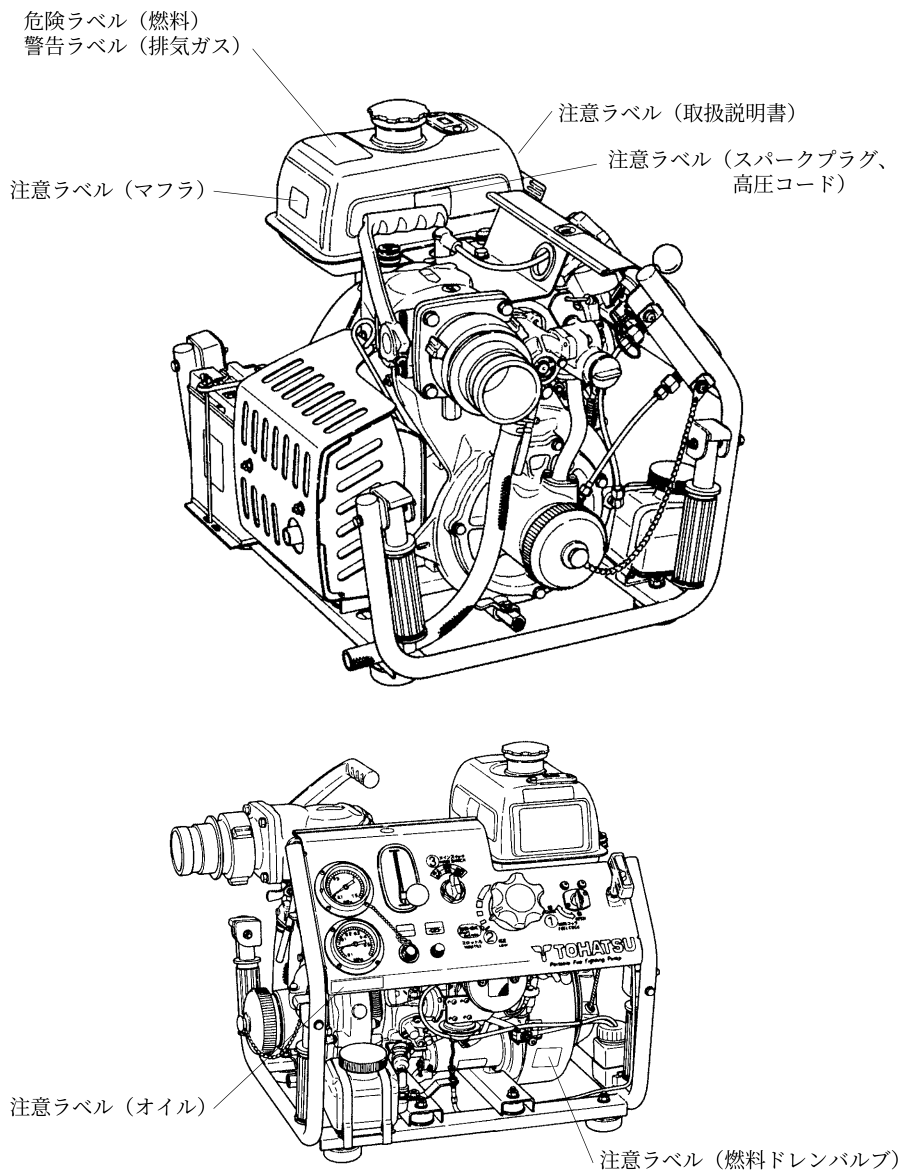
主要部名称





注：※印はセル付専用
☆印はセル無し専用

警告ラベル貼付位置


危険ラベル（燃料）
警告ラベル（排気ガス）
注意ラベル（取扱説明書）
注意ラベル（スパークプラグ、
高圧コード）
注意ラベル（マフラ）
TOHATSU
注意ラベル（オイル）
注意ラベル（燃料ドレンバルブ）

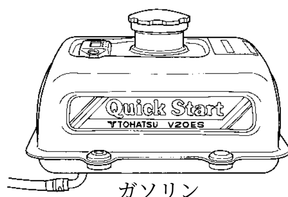
運　転　準　備

（1）燃料タンク及びオイルタンクへの給油

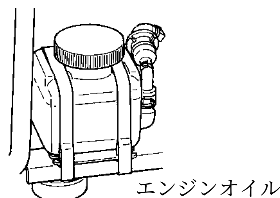
燃料タンクへ自動車用レギュラーガソリンを入れて下さい。

オイルタンクへ２サイクルエンジンオイルを入れて下さい。

燃料及びエンジンオイルはそれぞれのタンクへ十分入れて下さい。タンクゲージにてチェックできます。オイルタンクにはオイルレベルセンサーが標準装備されています。



ガソリン


エンジンオイル

 **危　険**

気化したガソリンは引火爆発の危険があります。

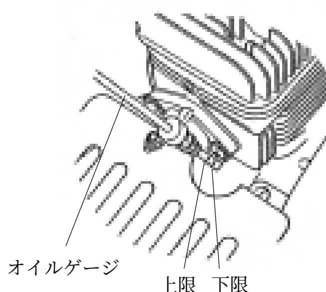
●燃料には火気を近づけないで下さい。
●燃料補給時はエンジンを停止して下さい。
●燃料をこぼさないで下さい。

 **注　意**

●オイルタンクへ２サイクルエンジンオイルを給油する際、異なる銘柄のオイルを混合しないで下さい。エンジン焼付きの原因となる場合があります。
●２サイクルエンジンオイルは、「トーハツ純正２サイクルエンジンオイル」の使用を推奨いたします。
●充分にエンジンが冷えてから給油して下さい。
●燃料補給時以外は燃料タンクキャップを確実にしめておいて下さい。
●もし、燃料をこぼした場合は、布などで拭きその布を処分して下さい。拭いた布を部屋等に放置しておくとガソリンが気化引火する恐れがあります。

(2) **ガバナ室オイル**

工場出荷時、ガバナ室には２サイクルエンジンオイルを注入してありますが、念の為に規定量のオイルが入っているか、オイルゲージを取外して、オイル量を確認して下さい。不足の場合は、オイルゲージ挿入口よりオイルを規定量（オイルゲージ指示線まで）注入補給して下さい。



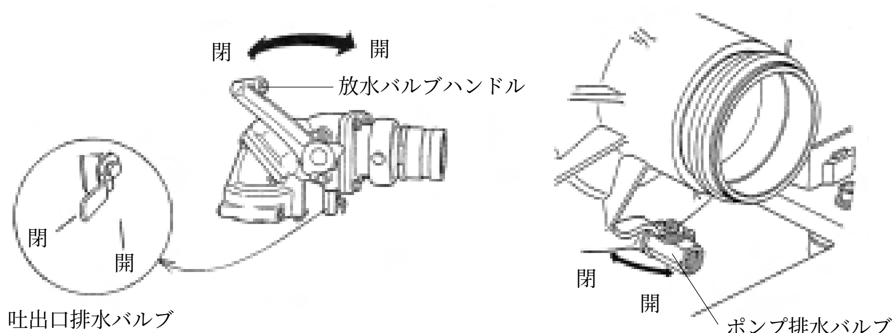
(3) **バッテリの初充電・装備〔V20ES、V25AS〕**

本機に装着のバッテリは即用式です。付属品のバッテリ液（0.85 ℓ入）をバッテリの液槽に注入することにより、直ちに装着して使用することが出来ます。詳しくはバッテリに添付されている取扱説明書に従って下さい。

尚、液口栓頂部に貼ってあるシールは必ずはがしてご使用下さい。

（4）放水バルブ及びポンプ排水バルブ

放水バルブ及びポンプ排水バルブは、忘れずに閉めて下さい。



（5）ポンプの設置

①　消防ポンプは、なるべく水源に近く、平坦で、操作（作業）に容易な場所に設置します。

②　吸水管をポンプに確実に結合し、吸水管を水源に投入します。

※吸水管には、必ずストレーナー、藤籠を取付け、ポンプ内への異物の流入を防ぎ、正常な運転、放水が出来る様に注意して下さい。

③　吐出ホースをポンプに確実に結合し、管鎗をホースに結合します。

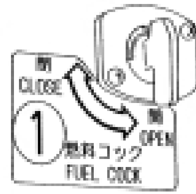
注）**管鎗には規定口径の筒先ノズルを必ず取付けて、放水を行って下さい。**

	V20E(S)	V25A(S)
定　　格	19　mm	18　mm
高　　圧	13　mm	12　mm

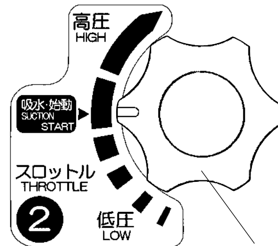
注）規定以上の大きい口径のノズルを使用して放水を行いますと、ポンプ性能の低下及び故障の原因ともなりますので、ご注意下さい。

始　　動

①　燃料バルブを開きます。燃料がキャブレタに送られます。



②　スロットルダイヤルを " 吸水・始動 " の位置に合わせます。



スロットルダイヤル

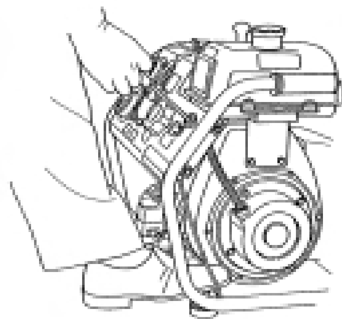
③　エンジン始動

〔リコイルスタータ式…V20E、V25A〕

リコイルスタータハンドルを強く引張りエンジンを始動させます。（エンジンベースを足でしっかりと押え付ける。）

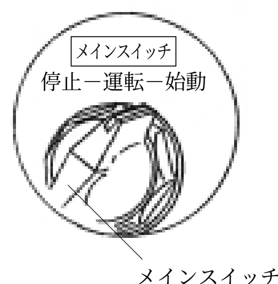
◯スタータハンドルを握り、ラチェットのかみ合うところより、一気に力強く引張ります。

◯スタータハンドルを引張った位置より手離すと、スタータ機構の故障原因となりますので、必ず握ったまま元の位置へおさめるようにして戻して下さい。



〔セルスタータ式…V20ES、V25AS〕

メインスイッチを「始動」の位置まで回して、エンジンを始動させます。



注）メインスイッチは、**３秒間作動させたら、５秒間休みの**操作として下さい。
連続操作はスタータモータやバッテリの寿命を縮めます。

備　考：スタータモータが作動しない場合は、リコイルスタータにより始動して下さい。…前ページ参照。

参　考：このポンプはエンジンを始動する時に、キャブレタティクラーのオーバーフロー及びチョークレバーの操作は必要ありません。
オートチョーク式キャブレタを採用していますので、温度により自動的にチョークが作動し、エンジンが始動すると自動的にチョークが開きます。

◎エンジンオイル警告ブザーについて

オイルポット内のエンジンオイル量が1/3以下になると、ブザーが鳴り警告します。エンジンオイルをオイルポットに補給してください。

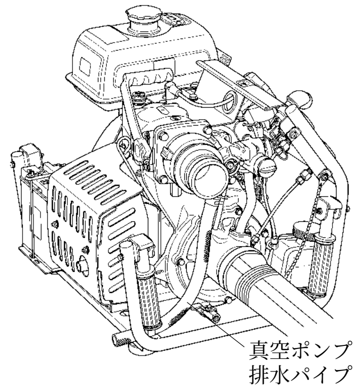
吸 水 ・ 放 水

① 吸水レバーを引き上げます。

○Vベルトが張られ、真空ポンプが作動し水を吸い上げます。



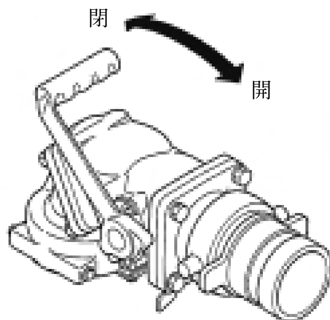
② 真空ポンプ排水パイプから**連続的に水が出るのを確認**（本体圧ゲージ ⊕ 側に作動）してから、吸水レバーを速やかに元の位置に戻します。



注）・エンジンは、空冷式ですが、吸水しない運転（空運転）は低速で２分以内にとどめて下さい。

・真空ポンプの操作は、30秒以内にとどめて下さい。30秒以内に吸水できない場合は問題があります。原因を調べて下さい（不調原因早見表参照願います）。

③　エンジンを始動し吸水を完了したら、放水バルブハンドルをゆっくり開き、全開にします。



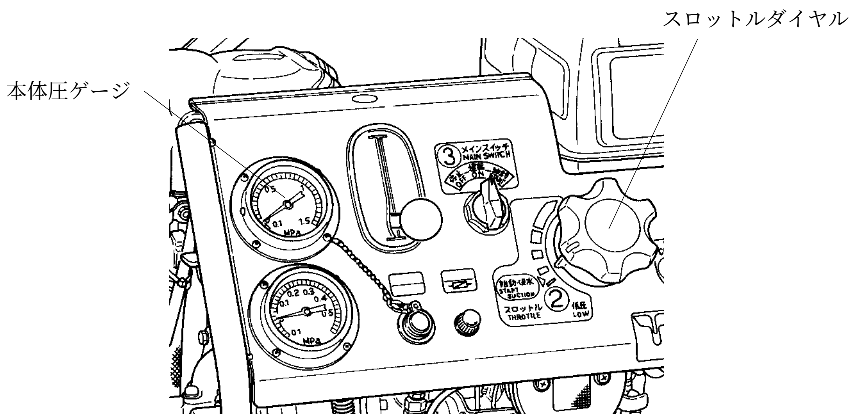
○放水開始は筒先側に合図をしてから行うようにして下さい。

○放水口は、ポンプ側からマフラ側まで約90°の間方向転換が出来ます。

注）・結合した吸水管に途中凹凸が出来た場合、吸水管内に空気溜りが出来て、放水バルブを開いた時に落水し、放水出来ない場合があります。この場合は、直ちに再度真空ポンプ操作をして下さい。

（真空ポンプを作動させる場合は、放水バルブハンドルを閉にして下さい。）

④　正常な放水状態を確認し、本体圧ゲージを見ながら、必要圧力まで、スロットルダイヤルを徐々に高圧側に操作します。



停　　止

① スロットルダイヤルを低圧側に戻す。

② 放水バルブを閉にする。

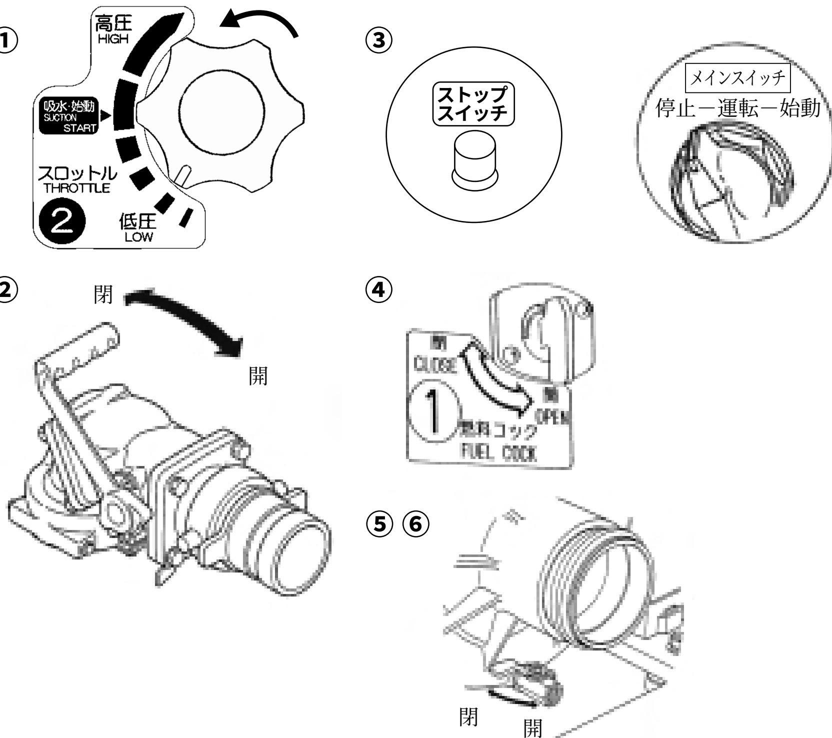
③ V20E：**ストップスイッチをエンジンが完全に停止するまで、押し続ける。**
V25A

V20ES：**メインスイッチを「停止」の位置にする。**
V25AS

④ 燃料バルブを閉にする。

⑤ ポンプ排水バルブを「開」にして、完全に排水する。

⑥ 排水が完了したら、ポンプ排水バルブを「閉」にする。



使 用 上 の 注 意

取扱いを誤まらないように、各々の項目には取扱い方法及び注意を記し、更に警告表示もしてあります。

ここには、各々の項に記載されていない使用上における注意および警告が表示されています。必ず守って下さい。

 **警　告**

排気ガスは一酸化炭素を含み、中毒を引き起こす危険があります。
閉め切った所ではエンジンを運転しないで下さい。

 **警　告**

プーリやベルトの回転部品に触れるとケガをする危険があります。エンジン運転中や真空ポンプ作動中はプーリ、ベルト等に触れないで下さい。

 **注　意**

高圧コードやスパークプラグには高電圧の電気が流れています。エンジン運転中は触れないで下さい。

 **注　意**

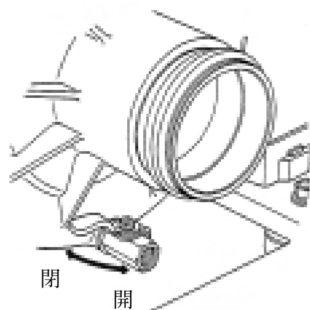
エンジン運転中および運転後10分間は排気管やマフラに触れないで下さい。

 注　意

(1) ポンプは可燃物から３m以上離れた場所に設置し運転して下さい。
　もし不可能な状況の場合は、少なくともマフラよりの排気ガス方向については留意して下さい。
(2) マフラは高温になります。枯草等の上では運転しないで下さい。やむをえない場合は、枯草等を除去して下さい。
(3) 運転中は吸水管、ホースを自動車等で踏みつぶされないように注意して下さい。
(4) 放水バルブを開いたままエンジンを始動しないで下さい。
(5) 放水バルブは低圧で開閉操作して下さい。
(6) 放水時には、機関操作者は筒先操作者と連絡をとり合い、放水バルブハンドルを予告なく開いたり、急加速をしないで下さい。
(7) 放水中の筒先操作者は背負いバンドを装着して下さい。
　放水量と圧力によっては、２人で管鎗の保持をして下さい。
(8) 人に向けての放水はしないで下さい。
(9) ノズルを覗かないで下さい。
(10) 吸水管を取付けずに運転する場合（真空度の確認時等）は吸水口キャップを取付けて下さい。
(11) 放水バルブには指や手を入れないで下さい。
(12) ポンプの重量を考慮し、ギックリ腰や落下に注意を払い、運搬・積載して下さい。
(13) 排出またはこぼしたオイルは拭き取って下さい。
(14) 燃料、オイル、バッテリを廃棄する場合は専門業者に処分を依頼して下さい。
(15) 土木、清掃、かんがい、散水等には使用しないで下さい。
(16) 水以外の液体（可燃液体、薬液等）の吸入・吐出用には使用しないで下さい。

運 転 後 の 処 置

(1) 放水バルブハンドルを僅か開き（全開にする必要はありません）、放水バルブの吐出口排水バルブ及びポンプ排水バルブを開き、吸水レバーを上げて真空ポンプインレットケース内の水も完全に排水して下さい。排水後は全ての排水バルブ及び放水バルブハンドルを閉じておいて下さい。



(2) 泥水、海水等を放水した後は必ず清水で放水運転を行い、泥水・塩分等を取除いてから格納して下さい。

(3) 消防ホース、管鎗、吸水管等のゴムパッキンは消耗品です。水洩れ、真空不良等の原因にもなりますので、常に点検し、不良品は速やかに交換の処置をして下さい。

(4) 燃料、エンジンオイル、ガバナ室オイルは必ず点検して、常時出動に対応出来る様に給油しておきます。

定期点検時は燃料も必ず点検し、もし刺激性の臭いがしたり、濁っている場合は直に新しい燃料と交換して下さい。

ポンプを長期格納する場合は、キャブレタフロート室内の燃料を抜いておいて下さい。

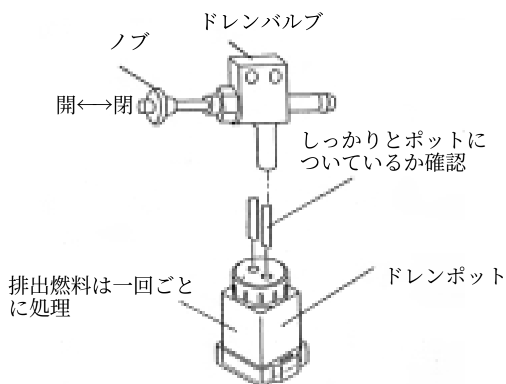
プル式ドレンを採用しています。操作順序は以下に従って下さい。

① エンジン停止後、燃料バルブを閉じて下さい。

② ドレンバルブのノブを真直ぐに引いて下さい。（フロートチャンバ内の燃料が流れ出します）

③ 完全に燃料が抜けたら、ノブを離して下さい。（ドレンノブは閉の状態に戻ります）

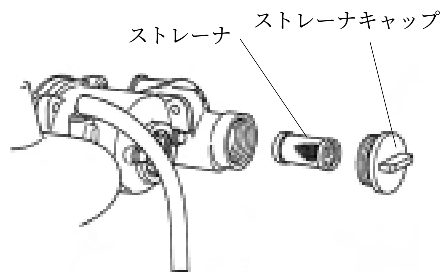
④ ドレンポットに溜まった燃料は、そのつど燃料タンクに戻して下さい。



ただし、水、ゴミ等が混じっている場合は、処理して下さい。

(5) オイルレス真空ポンプのストレーナ掃除

ストレーナにゴミが付着している場合は真空性能が落ちます。ストレーナキャップを取外し、ストレーナを真水にて洗浄して下さい。



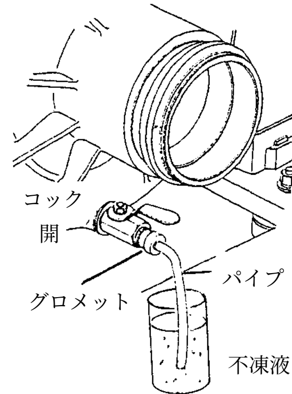
寒 冷 時 の 注 意

(1) 不凍液の入れ方（付属品のビニールパイプ使用の場合）

① エンジン停止状態で、ポンプ排水バルブを開き排水を完全に行った後、吸水キャップを閉じます。

② ポンプ排水バルブを開のまま、付属品のビニールパイプ（グロメット付）を結合します。

③ 不凍液（180～200ml）の入っている容器にビニールパイプを入れます。



④ スロットルダイヤルを「始動・吸水」の位置にしてエンジンを始動し、吸水レバーを引上げ、真空ポンプを作動させ、不凍液をポンプ内に吸入させます。

不凍液吸入後も空気を吸いこませ、不凍液を各部に行き渡らせるために、真空ポンプを約30秒作動させて下さい。

⑤ エンジンを停止し、ポンプ排水バルブを閉じて下さい。

⑥ 放水バルブのパッキン部にもオイル差し等で不凍液を注入して下さい。

(2) バッテリ〔V20ES、V25AS〕

バッテリは温度が下がると、著しく性能が低下します。また比重が低いと凍結のおそれがあります（比重が1.10以下では氷点が－10℃前後となり氷結しやすくなります)。比重測定と充電に留意して下さい。

付属品取扱上の要領

（1）自動充電器〔V20ES、V25AS〕

バッテリ充電方法は、以下の通りです。

① バッテリの液量、端子の汚れ・ゆるみ・ガタのないことを確認して下さい。

② ポンプ側のコンセントに、充電用プラグを差し込んで下さい。

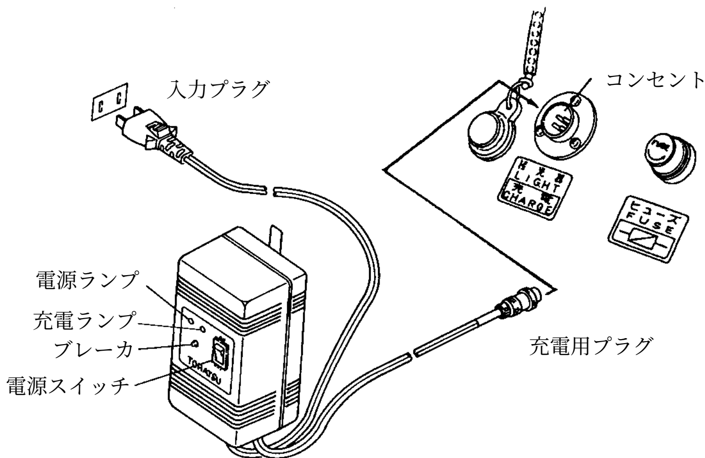
③ 入力プラグを、交流100Vの家庭用電源に差し込んで下さい。

④ 電源スイッチを「ON」にして下さい。電源ランプ（赤）が点灯し充電を開始します。充電ランプ（緑）は消灯しています。

⑤ バッテリが80%以上の回復状態になると、充電ランプ（緑）が点灯します。電源ランプ（赤）も点灯しています。

⑥ 電源ランプ（赤）が消灯すると、充電が完了です。充電ランプ（緑）は、点灯しています。充電したままとしておいて下さい。
………備考２）を参照下さい。

⑦ 充電完了後または、充電途中で電源スイッチを「ON」「OFF」すると④→⑥の状態を繰り返します。



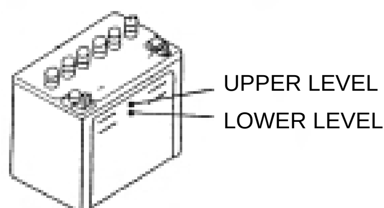
備考１）充電時間は、バッテリが新しいか古いかにより多少の差はありますが、50%放電状態のバッテリで13時間程度です。

２）当充電器は自動充電式です、バッテリがほぼ満充電になると充電ランプ（緑）が点灯し、電源ランプ（赤）が消灯します。この状態で自動的に充電電流が微弱となり、補償充電となりますので充電したままにしておいて下さい。
但し、出動時には、電源スイッチを「OFF」にして充電プラグを外して下さい。

注意１）充電器は床に置かず不燃性の台の上もしくは壁に掛けて下さい。

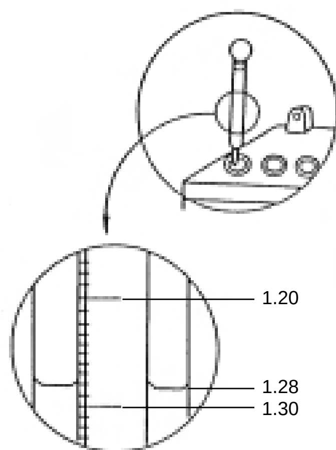
２）バッテリの極性（ ⊕⊖ ）を間違えて逆接続するとブレーカが作動します。⊕⊖ を正しく接続してブレーカを「ON」にして下さい。

点検・保守



１）バッテリ液は補償充電状態でも減少します。月に１度はバッテリ液面を点検し、「LOWER LEVEL」付近でしたら「UPPER LEVEL」まで蒸留水を補充して下さい。

２）正確な充電状態を知るには比重計でバッテリ液の比重を計って下さい。満充電の比重は1.28（20℃換算）です。



３）バッテリの外面は常に清潔に保って下さい。

４）バッテリの性能は正しく取扱っても約２年で急激に劣化します。バッテリ交換の目安にしてください。

　バッテリの電解液、発生水素ガスは、ヤケド、引火爆発の危険があります。バッテリ付きポンプにおけるその取扱いには十分注意して下さい。

 注　意
バッテリに表示されている警告を良く読んだ上、バッテリを使用して下さい。

 警　告
バッテリ付近では火気を絶対使用しないで下さい。

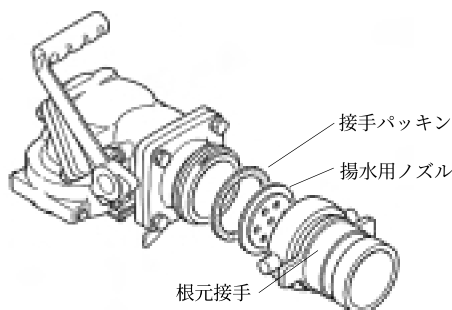
 警　告
バッテリの充電は閉め切った所で行わないで下さい。

(2) 揚水用ノズル（標準付属品）

　消防ポンプを揚水ポンプとして使用する場合には、必ず揚水用ノズルを使用して下さい。

　揚水ポンプに使用する際、筒先ノズルを外したまま放水しますと、エンジンに過大な負荷がかかりエンジンを焼付かせてしまうことがあります。

　このため、図のように根本接手とパッキンの間に揚水用ノズルを入れて使用することにより、エンジンを保護することができます。又この場合、ホースの先端に筒先ノズルをつける必要はありません。



保守・点検・格納

いつでも消防ポンプを使用できる状態にしておく為に保守、点検及び格納に心がけて下さい。

(1) 保管場所は湿気のあるところは避け、水平に置いて下さい。

(2) 油やゴミをよくふきとって、いつもきれいにしておいて下さい。

(3) 燃料は燃料タンクに満タンにしておいて下さい。

(4) エンジンオイルは常にUPPER LEVELまで補給して下さい。

(5) ガバナ室のオイルは補充して適量にしておいて下さい。

(6) 少なくとも１ヶ月に１回は放水運転して異常の有無を点検し整備して下さい。

(7) 月に１度はバッテリ液を点検し「LOWER LEVEL」付近でしたら「UPPER LEVEL」まで蒸留水を補充し充電して下さい。

(8) １ヶ月以上運転を行わない場合は、キャブレタフロート室内の燃料を完全に抜いておいて下さい。

(9) スパークプラグの汚れは掃除し、ギャップは適正に調整して下さい。もしくは新品に交換して下さい。

使用スパークプラグ…NGK B7HS、適正ギャップ0.6〜0.7mm

(10) 真空ポンプ用Vーベルトが摩耗や亀裂を起こしていたら交換して下さい。…交換は販売店に依頼して下さい。

(11) ポンプに異物が入らぬように、吸水口キャップをし、ポンプビニルカバーをかぶせて下さい。

定 期 点 検

下記項目に従って、必ず点検を実施して下さい。

点 検 箇 所	運 転 時 間 もしくは期間	点 検 内 容	処　　置	備考
燃　　料 エンジンオイル 真空ポンプストレーナ ランプ類 ガバナ室オイル	使用後毎 使用後毎 １ヶ月毎 使用後毎 50時間毎／３ヶ月毎	タンク内燃料 タンク内オイル ゴミの付着 点灯 検油棒にて点検	補給 補給 清掃 交換 必要により補給	
バッテリ	１ヶ月毎	液面	必要により補液・充電	
スタータロープ	１ヶ月毎	摩耗、破損	交換※	
スパークプラグ NGK B7HS	50時間毎／１ヶ月毎	汚損状態やギャップ	清掃・修正又は交換	
燃料系統	50時間毎／１ヶ月毎	ストレーナ内汚れや水の有無 各パイプ及び結合部の燃料にじみ	交換※ 交換※	
ポンプ関係	50～100時間毎／１年毎	性能確認	必要により交換	○
放水バルブ	50～100時間毎／１年毎	真空洩れ	必要により交換	○
Vーベルト A-26	100時間毎／１年毎	摩耗、亀裂、延び	交換※	
圧縮圧力	100時間毎／１年毎	標準圧縮圧力	必要により交換	○
全 部 品	300時間毎／３年毎	オーバホール	必要により交換	○

注　１）備考欄に○印を付した項目についての点検及び処置並びに処置欄※印については販売店に依頼して下さい。
　　２）運転時間もしくは期間は先に到達した方で実施して下さい。

不 調 原 因 早 見 表

１．始動困難

電気系統

①　スパークプラグを点検する。焼損、汚損、ブリッジはないか。
（清掃又は交換）

②　コードの外れはないか。
（接続を完全にする）

③　電装品周りの、コードの短絡
（修理する）

④　バッテリの電圧不足、液面不足（セルスタータ仕様）
（補充電、蒸留水の補給）

⑤　バッテリ端子のコード締付不足（セルスタータ仕様）
（締付ける）

⑥　ヒューズの切れ（セルスタータ仕様）
（付属品5Aと交換）

燃料系統

①　燃料系統のつまりはないか。（燃料パイプ、コックの清掃）
（キャブレタの点検…販売店に相談）

②　燃料タンクキャップの通気孔つまり点検。

圧縮系統

①　燃焼室の圧縮もれ。
（スパークプラグを完全に締付る。シリンダヘッド増締め、ガスケットの破損はないか点検（販売店に相談））

２．吸水困難・不能

① 吸水管より空気吸込み。
（吸水管の締付は完全か、パッキンも点検する）

② バルブ類の閉め忘れはないか。
（ポンプ排水バルブ）

③ 真空ポンプ不調。
（ストレーナにゴミの付着がないか）

④ パイプのゆるみと亀裂の点検。
（真空連成計パイプ及び真空パイプの点検）

⑤ メカニカルシールの不良。
（販売店に修理依頼）

３．放水圧力低下

① 吸水管の点検
（ストレーナにゴミが付着していないか、締付不良による空気もれはないか）

② ポンプ内の点検
（ポンプ内にゴミがつまっていないか）

③ 管鎗ノズル口径の不適格
（規格口径のノズル、又は安全ノズルを使用する）
（定格19mm、高圧13mm）

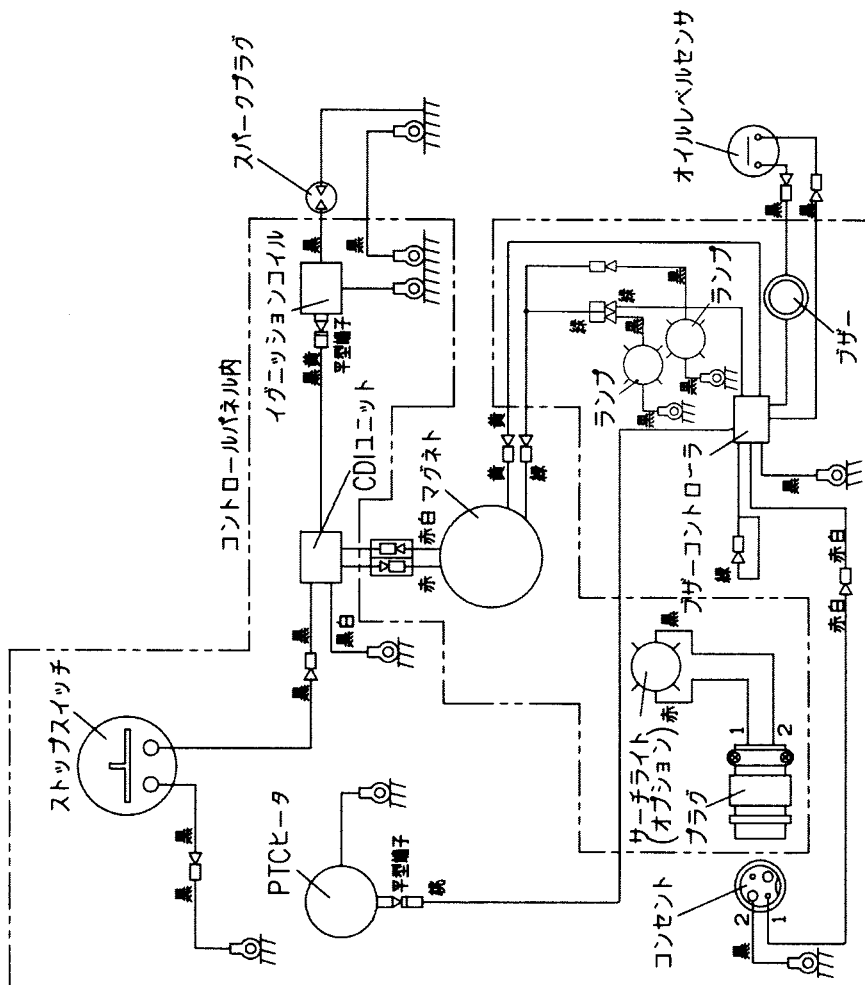
付属品一覧表

品　　名	数　量	備　　考
取扱説明書	1冊	
工具袋	1個	
工具	1個	プラグレンチ（20.8mm）
	1個	プラグレンチハンドル
スパークプラグ	1本	NGK B7HS
※ヒューズ	1本	5A
※充電器	1個	
※バッテリ　電解液	1箱	0.85ℓ入
根本接手	1個	呼び65
揚水用ノズル	1個	
カバー	1枚	（ビニール製）
ビニールパイプ	1個	不凍液注入用

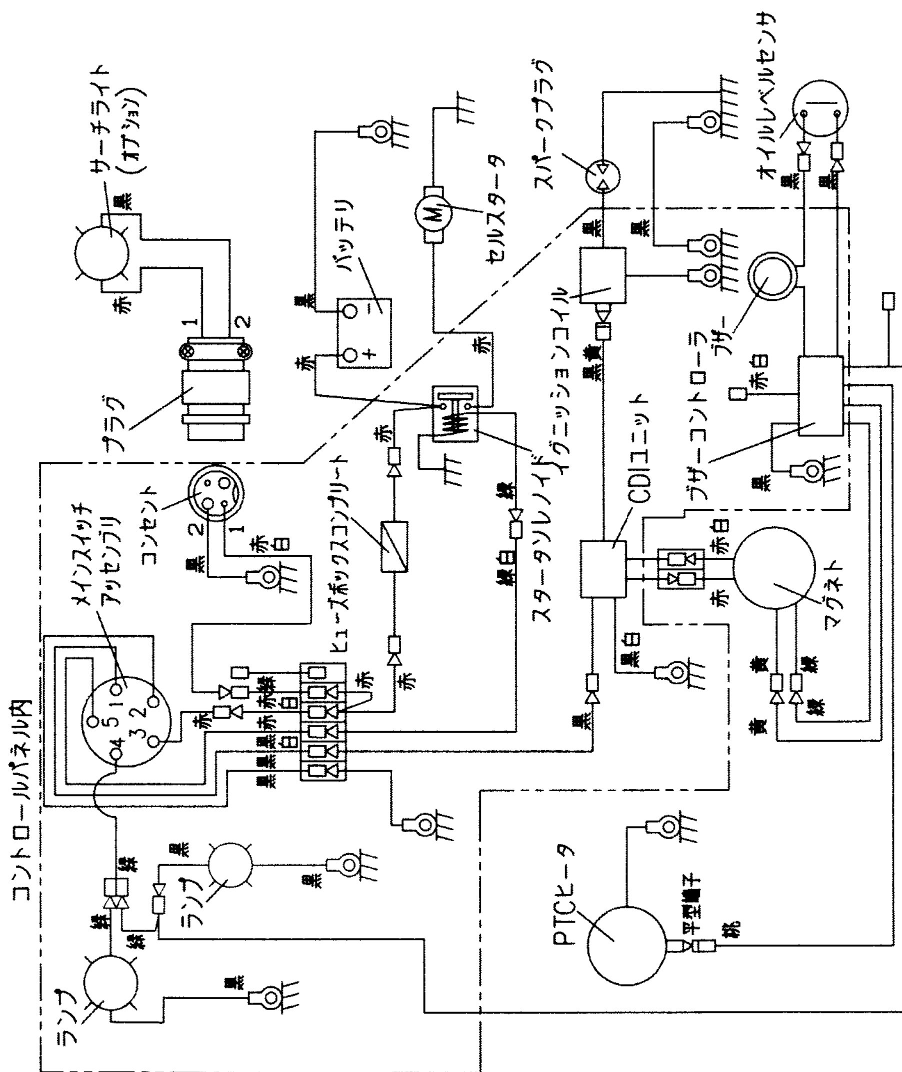
※セル付専用

配 線 図

V20E・V25A配線図



V20ES・V25AS配線図



トーハツ消防ポンプ控

形　式　及　No	No
購 入 年 月 日	年　　　月　　　日
販　　売　　店	TEL

点検記録

年月日	担当者	連　絡　事　項

MEMO

MEMO

営業品目

▷ 消防ポンプ ▷ 防災システム
▷ 小型全自動消防車 ▷ 軽四輪駆動消防車
▷ 船　外　機 ▷ プレジャーボート
▷ 輸送用冷凍装置



本　　　社	〒174-0051	東京都板橋区小豆沢３－５－４ 電話（03）3966-3115（防災営業部）
防災九州	〒812-0892	福岡市博多区東那珂２－10－55 電話（092）411-8770㈹
防災関西	〒530-0043	大阪市北区天満１－８－27 電話（06）6358-2971㈹
防災中部	〒174-0051	東京都板橋区小豆沢３－５－４ 電話（03）3966-3115㈹
防災中央	〒174-0051	東京都板橋区小豆沢３－５－４ 電話（03）3966-3115㈹
防災東北	〒984-0816	仙台市若林区河原町１－５－１ 電話（022）398-4806㈹
防災北海道	〒174-0051	東京都板橋区小豆沢３－５－４ 電話（03）3966-3115㈹

003-12045-3
1104（新）500

■可搬消防ポンプの整備は信頼ある資格者が行いましょう。